

赤十字 きょうと

〒605-0941 京都市東山区三十三間堂廻り町644
TEL 075-541-9326 FAX 075-541-1361



5月は赤十字運動月間

日本赤十字社は、5月1日から「赤十字運動月間」として全国キャンペーンを実施します。

月間中は、広く赤十字思想の普及と活動紹介等に努めるとともに、活動資金のご協力と「赤十字社員」の拡大をお願いしています。

**災害時、すぐ動くために
みなさまからの活動資金が必要です。**

「社員」にご加入をお願いします。

社員とは？ 赤十字社の人道的な活動に賛同し、毎年500円以上の資金協力をしていただく方のことです。日本赤十字社は、皆様から託されたこの資金で運営しています。

東日本大震災被災地への応援メッセージ 『ひろげよう赤十字の輪<和>』を開催



救急法体験コーナーでAEDの使い方を実習



被災地への応援メッセージが多くの人から寄せられた



地上の京都駅前でも募金活動を実施

日本赤十字社京都府支部では、平成23年5月15日に京都駅前地下街ポルタプラザで、支部・赤十字病院・血液センターと赤十字奉仕団・有功会・青少年赤十字が参加して「ひろげよう赤十字の輪<和>」を開催しました。

平成23年3月11日14時46分に発生した「東日本大震災」では、6月19日までの3か月にわたり、京都第一・第二・舞鶴赤十字病院の医師、看護師、事務員からなる救護班に、こころのケアスタッフ・レスキューチェーン京都等の防災ボランティアを加え16班、延べ134名を被災地に派遣しました。

また、日本赤十字社では平成24年9月30日まで「東日本大震災義援金」を受け付けています。京都府支部には、平成24年3月31日現在705件、14億4,847万6,050円（全国では275万2,904件、3,136億9,314万0,787円※4/3本社ホームページより）の義援金をお寄せいただきました。この義援金は、本社から各被災県ごとに設置されている義援金配分委員会に送られ、被災市町村を通じて被災者の皆様に現金で渡されています。

毎年5月の赤十字運動月間を中心に皆様から寄せられた赤十字活動資金は、災害時の医療支援、こころのケア、毛布などの救援物資の配布などを、平時は、救急法の講習普及、ボランティアや青少年赤十字の育成などに役立てられます。



近畿各府県民の救援物資は専用の積重ね車に集積してから被災地に搬送された



石巻赤十字病院ロビーでは懸命に被災者の救護にあたった



石巻赤十字病院では、連日被災者対策のための会議が開かれた



3月11日16時59分に被災地に向けて出発する救護班



津波で流されたガレキの中を進む救護車両

■京都府支部扱い国内災害義援金（3月31日現在）

	件数	金額	受付期間
東日本大震災	705件	1,448,476,050円	H23.3.14~H24.9.30
平成23年7月新潟県豪雨災害	11件	45,471円	H23.8.1~H23.12.28
平成23年7月福島県豪雨災害	1件	8,861円	H23.8.5~H23.10.31
奈良県台風12号災害	7件	146,892円	H23.9.8~H23.11.25
台風12号三重県災害	3件	90,835円	H23.9.9~H23.11.30
和歌山県平成23年台風12号災害	5件	150,643円	H23.9.9~H24.3.30

■東日本大震災救護班派遣実績

実施日	場所	派遣人員
3/11~16	宮城県	8
3/15~19	宮城県	13
3/18~22	宮城県	10
3/21~25	福島県	10
3/24~28	福島県	8
3/27~31	福島県	10
4/2~6	福島県会津若松市	8
4/5~9	福島県会津若松市	8
4/11~15	福島県会津若松市	9
4/14~18	福島県会津若松市	8
4/20~24	福島県会津若松市	9
4/23~27	福島県会津若松市	9
4/29~5/3	福島県会津若松市	9
5/14~18	岩手県下閉伊郡山田町	9
6/6~11	岩手県宮古市	3
6/14~19	岩手県宮古市	3



福島県会津若松市 (4/28)



岩手県宮古市 避難所で活動する心のケアスタッフ (6/18)



岩手県山田町 (5/15)



福島県会津若松市 (4/27)



岩手県宮古市 こころのケア (6/8)

赤十字運動月間キャンペーン



啓発チラシを配付する橋本城陽市地区長〈城陽市長〉(5/17)

5月17日にJR城陽駅で、通勤電車の乗降客に城陽市地区赤十字奉仕団(城炊会)や支部・地区関係者が東日本大震災義援金募金と赤十字啓発チラシなどを配付しました。



東日本大震災義援金募金活動をするボランティア(5/23)

北部の「ひろげよう赤十字の輪(和)」として、5月23日に舞鶴市「田辺城まつり」に赤十字コーナーを設置し、福知山赤十字血液センター設置の献血会場への呼びかけをしました。

京都市各区ふれあいまつり

京都市内の各区ふれあいまつりに赤十字コーナーを設け、東日本大震災活動パネルを展示し、赤十字奉仕団と支部で、こども救護服撮影会 血圧・体脂肪測定、赤十字啓発チラシなどを配付しました。



救護車両の前で救護服を着て撮影会(10/23)



赤十字啓発物を配付する赤十字奉仕団員(10/23)

今年参加した主なふれあいまつり

- ・北区民春まつり(6/5)
- ・左京区民ふれあいまつり(7/24)
- ・上京区民ふれあいまつり2011(10/23)
- ・中京区民ふれあいまつり2011(10/30)
- ・下京区ふれ愛ひろば(11/13)
- ・南区民ふれあいまつり(11/13)

コラム① AIDS文化フォーラムin京都を開催して

日本は他の先進国と比べて、AIDS発病患者が増加しています。そして、関西でより顕著です。

HIV/AIDSの予防と理解のため、平成23年10月1日と2日、龍谷大学大宮学舎においてAIDS文化フォーラムin京都を開催しました。

「エイズを知ろう、エイズで学ぼう」のキャッチフレーズのもと、医療関係者、教育関係者、地元でボランティア活動をされている方など多くの方々の参加協力をいただき、実りあるフォーラムになりました。

京都第一赤十字病院からは多数がスタッフとして参加し、若者を対象にした企画では、京都青年赤十字奉仕団(RCY)がピュアエデュケーションを行ないました。また、赤十字看護学生も参加し、Crossカフェを開きました。会場には2日間で延べ1,000人の入場者がありました。

日本赤十字社京都府支部からは、運営委員をはじめ人的及び資材的協力をいただきました。

ご参加いただいた方から「今までのHIVは病院に行って話せる話題だったけれど、こんなに多くの方がHIVについて話し合う場所にいられてそれがとてもうれしかった。」といったコメントをいただきました。

これからも毎年フォーラムを開き、市民のみなさんとともにこの問題を考えてゆければと思います。

(京都第一赤十字病院 感染制御部長 大野聖子)



赤十字講習会

■講習会の種類と受講者数（平成23年12月31日現在）

講習区分	資格講習						短期講習		合計	
	基礎講習		救急員等養成講習		救急員等資格継続研修		回数	人数	回数	人数
	回数	人数	回数	人数	回数	人数				
救急法	34	1,365	15	625	4	67	25	851	78	2,908
水上安全法			3	20	2	14	20	627	25	661
健康生活支援講習			2	21	1	7	26	694(356)	29	722
幼児安全法			2	19	1	6	9	182	12	207
合計	34	1,365	22	685	8	94	80	2,354	144	4,498



救急法基礎講習会(7/31)



水上安全法救急員養成講習会(海のプロダム)(7/8)



健康生活支援講習会(7/1)

訓練・セミナーなど

■今年参加した主な防災訓練

- ・福知山市地域防災訓練(8/28)
- ・近畿府県合同防災訓練(10/30)
- ・宇治市防災訓練(11/27)
- ・出水学区総合防災訓練(2/4)

■市民災害救護セミナー開催状況(支部)

- ・防災資材・非常炊飯など(6/21)
- ・応急手当・通信体験(8/21)
- ・きずの手当て(10/19)



市民災害救護セミナー(6/25)

■地域防災セミナー開催状況

- ・日赤左京区地区(5/27)
- ・日赤左京区地区修学院第二分団(7/23)
- ・日赤左京区地区岡崎分団(7/23)
- ・日赤北区地区衣笠分団(8/18)
- ・向日市社会福祉協議会(9/14)
- ・日赤山科地区山階学区(9/14・9/17・9/24)
- ・日赤左京区地区下鴨分団(11/22)

青少年赤十字活動

青少年赤十字は、健康安全、奉仕、国際理解・親善を実践目標として学校教育の場で教員の指導のもとに活動しています。現在、京都府内の小・中・高の216校が加盟し、約7万6千人の児童生徒が登録しています。



東日本大震災義援金募金活動(5/15)



献血ルーム見学会(7/19)



トレーニングセンター(8/8)



国際交流集会(9/4)



車いすバスケット体験教室(10/8)



NHK海外たすけあい街頭啓発(12/10)

支部評議員会開催

平成24年3月14日

平成24年2月17日に日本赤十字社京都府支部において「京都府支部評議員会」が開催されました。会議は小石原副支部長の議事進行により、支部管内施設にかかる平成23年度歳入歳出補正予算案及び平成24年度歳入歳出予算案が審議され、原案のとおり承認されました。平成24年度の支部の予算概要については次のとおりです。また、平成24年4月から近畿地区における血液事業の集約化が計画どおり実施され、それに伴う京都府赤十字血液センターの平成24年度事業計画案について報告されました。



■平成23年度 歳入歳出予算概算書

歳入			歳出		
科目	当初予算額(千円)	構成比率	科目	当初予算額(千円)	構成比率
社資収入	299,000	86.2%	災害救護事業費	54,074	15.6%
委託金収入	5,648	1.6%	社会活動費	60,557	17.4%
補助金及び交付金収入	2,226	0.6%	国際活動費	1,570	0.5%
繰入金収入	6,899	2.0%	地区分区交付金	48,560	14.0%
雑収入	6,234	1.8%	社業振興費	45,762	13.2%
前年度繰越金	27,000	7.8%	基盤整備交付金・補助金支出	15,948	4.6%
合 計	347,007	100%	積立金支出	8,978	2.6%
			総務管理費	60,845	17.5%
			資産取得及び資産管理費	3,513	1.0%
			本社送納金支出	43,200	12.4%
			予備	4,000	1.2%
			合 計	347,007	100%

有功会の活動



京都府支部有功会は、赤十字の行う人道的な諸事業に賛同し、金色有功賞(50万円以上の寄付者に対する表彰)を日本赤十字社から贈られた方々が赤十字活動を支援していること、昭和37年に全国で4番目の有功会として結成されました。

看護師の養成

京都府支部では昭和9年に救護看護師養成所を開設しました。現在は、京都第一・第二赤十字看護専門学校で地域医療の向上と災害救護活動にも従事できる赤十字看護師を養成しています。



コラム② 救護車両(救急車)の整備

舞鶴赤十字病院

平成7年1月17日に発生した「阪神淡路大震災」をきっかけに、救護車両として救急車が当院に配備され16年が経過しました。日頃は、災害発生に備え救護班と共に防災訓練などを中心に活躍し、平成9年1月に発生した「ロシアタンカー重油流出事故」を皮切りに、平成16年10月の「台風23号」に伴う巡回診療、昨年「東日本大震災」では福島県まで出動し任務を果たす事が出来ました。長年活躍してくれた車両も老朽化が著しく、この度(平成24年3月7日)更新されることとなりました。車両が大きくなったことにより、救護委員の長距離移動や医療・救護資機材の輸送がより効率的に行えるようになります。また、昇降式ストレッチャー等、新たな機能も多数備わるため日頃の訓練・整備を怠ることなく出動要請に迅速に対応できるよう、準備に努めてまいります。



コラム3 「教育こそが最高のプレゼント」 誕生したての南スーダンで看護支援

京都第二赤十字病院 小川里美 看護師長

独立を果たした南スーダンですが大量の難民発生や国境付近での衝突など緊張が続いており、赤十字国際委員会(ICRC)は、「紛争犠牲者支援事業」を展開。その一員として京都第二赤十字病院 小川里美看護師長が平成23年8月11日から11月13日まで派遣されました。

「犠牲者の大半は女性と子ども。弱者が守られていません」と小川さんは憤ります。

「地域の基幹病院なのに人材不足や設備不足が深刻。緊急手術には対応できず、メスなどの医療機材の滅菌、消毒もされていません。看護師のほとんどは読み書き、計算ができないので、カルテは読めず、薬の量も計れない。注射も見よう見まねでやっていました、」

「南スーダンの首都ジュバの病院でICRCは13年支援を続けました。そのときは成果が見えてきませんでしたが、後で報告を聞くと私たちの教えたことが根づいていました。ここマラカル教育病院の看護師たちは、読み書きはできませんが“いい看護をしたい”という思いは日本と変わりません。物やお金ではなく教育こそが最高のプレゼントなのです。」

ICRCは南スーダンの首都ジュバに代表部を設置。紛争犠牲者への食料配給、生活支援用品の配給、離散家族支援など幅広い事業を展開中です。スーダン内戦が続いていた過去21年間、日赤はICRCの要請に応じて47人を派遣。資金援助(2011年度2750万円)も続けています。

赤十字新聞(平成24年1月1日号)から



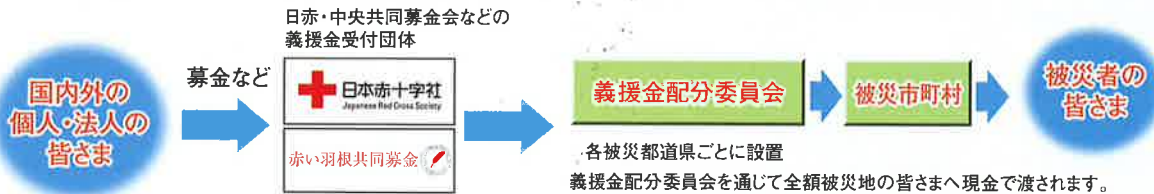
マラカル教育病院の看護師たちと小川看護師(前列中央)
小川看護師は1月に再び南スーダンへ赴任する予定です。



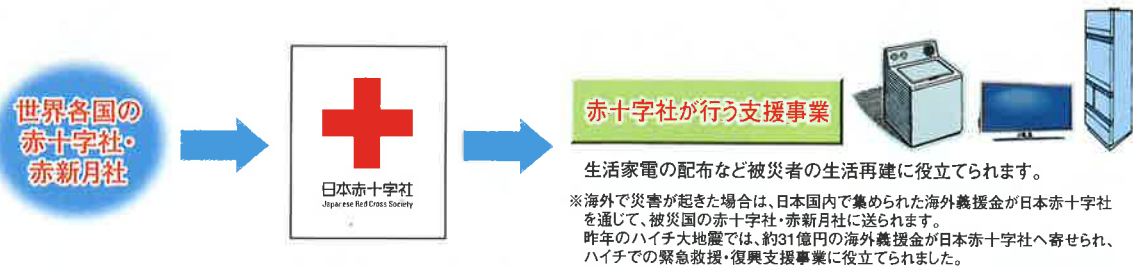
小川さんらによる衛生指導の以前は、壁には血が付着し、前の患者の血液がついたままのベッドで次の手術が行われることも

東日本大震災における義援金と救援金の流れ

義援金



海外救援金



赤十字活動資金の流れ

活動資金





戦争に行つて戦つて、生きて帰つたひいじいちゃんはおぼくのほこり。
 大事な命をおみやげに、ばあちゃんとお母さんが生まれた。
 命のリレー、いつかぼくも、つなぐよ、命のバトン

福島県白河市立表郷小学校4年生(男子)

わたしの青少年赤十字
 「詩・100文字提案作品集」
 (2011日本赤十字社福島県支部発行)から

宮城県女川町3/18

■府内赤十字施設のご案内

日本赤十字社 京都府支部 ☎(075) 541-9326
 〒605-0941 京都市東山区三十三間堂廻り町644 FAX (075) 541-1361

献血ルーム四条 ☎(0120) 640-388
 〒600-8006 京都市下京区四条通柳馬場西入立売中之町99 四条SETビル5F

京都第一赤十字病院 ☎(075) 561-1121
 〒605-0981 京都市東山区本町15-749 FAX (075) 561-6308

献血ルーム京都駅前 ☎(0120) 569-356
 〒600-8216 京都市下京区烏丸通七条下ル 京阪京都ビル6F

京都第二赤十字病院 ☎(075) 231-5171
 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上る FAX (075) 256-3451

献血ルーム伏見大手筋 ☎(0120) 731-350
 〒612-8053 京都市伏見区東大手町763 若由ビル1F

舞鶴赤十字病院 ☎(0773) 75-4175
 〒624-0906 舞鶴市字倉谷427 FAX (0773) 76-3724

日本赤十字社京都府支部ホームページ
<http://www.redcross-kyoto.jp/>



【QRコード】からアクセス

京都府赤十字血液センター ☎(075) 531-0111
 〒605-0941 京都市東山区三十三間堂廻り町644 FAX (075) 541-9485

京都府赤十字血液センター福知山出張所 ☎(0773) 27-6630
 〒620-0853 福知山市長田野町1-31-1 FAX (0773) 27-6723

日本赤十字社血液管理センター ☎(0773) 27-9501
 福知山市長田野町1-31-1 FAX (0773) 27-9601